

小中一貫教育の成果を次のステージへ

「わかった・できた」の実感による活用する力の育成 (湖南学園)

「協働の学び」をテーマに授業研究に取り組んだ。通常の授業研究会に加え、指導案なしのプチ・プレ研を設定することで、年間30回、全員1回以上実施できた。事後は、小・中教員が校種・教科を超えて協議を行い、互いの授業力を向上させていった。また、日常の授業でも小中相互乗り入れや小中TTを行っており、自然な形で授業力向上へのOJTが実現した。活用する力を育てるには、授業だけでなく特別活動・たてわり活動に力を入れる必要があるという仮説を立て、行事・児童生徒会活動等を通して、自治力向上をめざした指導を続けてきた。

小中一貫校の強みが活かされています。

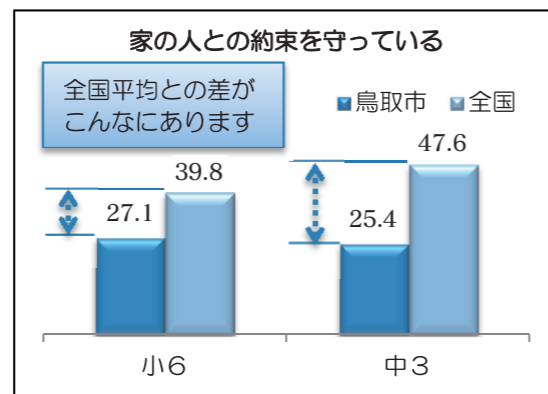
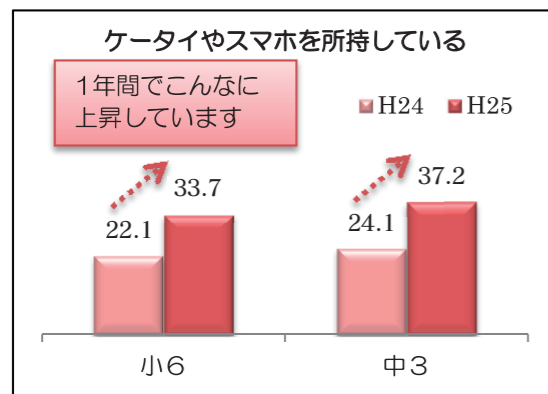
連携型小中一貫教育でできることは何かを追求しましょう。ないものを嘆くのではなく、ある資源を活用して。

地域や社会の出来事に興味関心を持ち、意欲的に社会に参画していこうとする生徒の育成 (鹿野中学校区)

鹿野中学校区では、「鹿野っ子プラン」を作成し、保育園・幼稚園から中学校までの各段階で子どもたちに身につけさせたい力を明確にして教育に取り組んでいる。年間に数回の合同交流会を実施し、園児、児童、生徒の交流活動が活発である。また、地域の祭りやボランティア活動など日頃から地域の大人と共に活動することが多く、保・幼・小・中が連携した合同行事への参加率も高い。学校としても地域の活動やボランティア活動などに参加しやすい環境づくりに取り組んできた。子どもたちの社会参画への意欲の高さを、地域や社会の明日を考える取り組みにつなげていきたい。

これからは、学校を核として、学校・家庭・地域が一体となって子どもを育てていく時代です。学校を地域に対して開いていくことが、今後ますます求められます。

メディアリテラシーは喫緊の課題



今般、各学校で策定される「学校いじめ防止基本方針」において、ネット上のいじめへの対応を規定する動きにみられるように、メディアリテラシー教育は喫緊の課題です。各中学校区でも講演を中心として様々な取り組みが見られますが、大切なポイントをいくつかまとめてみました。

- ・ケータイやインターネットは、麻薬やギャンブルとは違い、使わなくて済むものではない。利用すれば生活が向上するもの。ただし、過剰な利用によって生活が破綻する。
- ・インターネットは法の支配も及び現実社会の一部（追跡性が高い）。ネット犯罪の場合、警察は未成年でも容赦しない。
- ・情報モラルは、小学生の方が中学生より高い。学年が上がるにつれ欠如の傾向にある。
- ・情報モラルを学ぶとは、人間観、社会観を見つめなおすこと。情報モラルの知識は、継続した学習で得られる。教え込むのではなく考える力を養うことが大切。

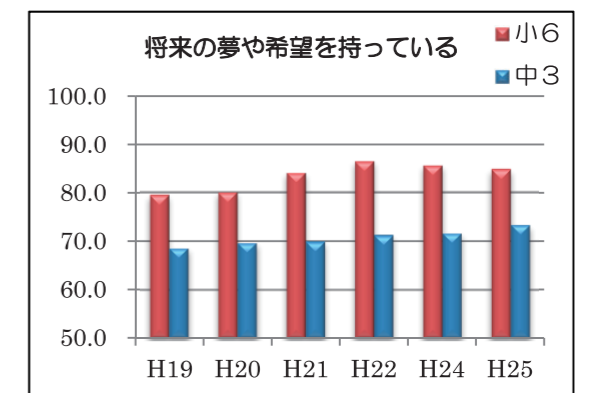
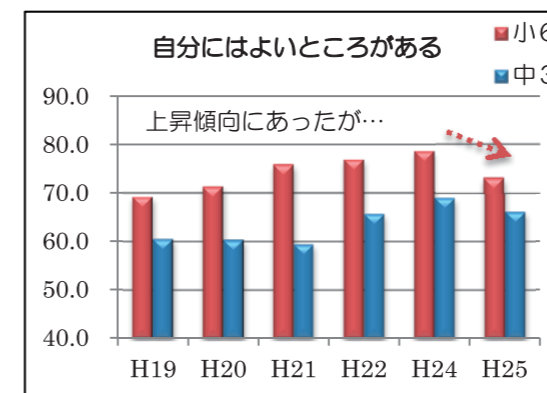
(鳥取県ケータイ・インターネット教育推進員 今度珠美さんの講演資料より引用)

今こそ、「ふるさとを思い志をもつ子」の育成を

—平成25年度全国学力・学習状況調査から— 平成26年2月 鳥取市教育委員会

(先生方へ) このリーフレットは、平成25年度全国学力・学習状況調査結果の分析及び各学校の取り組みをもとに、鳥取市の子どもたちが志高く学び続けるために大切だと思われる内容をまとめたものです。さまざまな取り組みに学び、各学校や地域の実態に合わせ、校区や地域をあげて、明日のふるさと鳥取を担う子どもたちを育てていきましょう。

将来の夢や希望を持ち自尊感情を高める



「自尊感情」や「将来の夢や希望」についての肯定的回答は上昇傾向にありましたが、本年度は低下しました。取り組みの成果の見られた学校からは、次のような実践報告がありました。

高学年児童の自覚と率先垂範(城北小学校)

長年、学校全体としてふるさとや学校を誇りに思い、自分に自信を持って行動できる児童の育成に取り組んできた。特に高学年を中心とした挨拶運動や児童会活動の充実などにより、「城北小」の一員であることを誇りに思い、行動しようとする児童が増えている。

児童が主体的に取り組む学校行事(倉田小学校)

自己肯定感の上昇をめざして、人権教育を中心にして取り組んできた。日常の学習の中で、運動会・学習発表会等の行事の中で、認められ褒められるということが、自尊心の高まりにつながっていると考えられる。

キャリア教育で自己目標を持ち将来の夢に向かって努力する力を育成する取り組み(青谷中学校区)

小・中で一貫して取り組みを進めているキャリア教育も3年目を迎えた。あきらめない気持ちを大切に日々がんばっているふるさとの先輩と交流し、その人の思いにふれ、自分と重ね、自分をふり返る活動を積極的に行ってきた。そして、自分もやればできるという気持ちを育て、学ぶ意欲を育ててきた。



ふるさとの先輩の話に熱心に聴く中学生と小6児童(青谷中学校区)

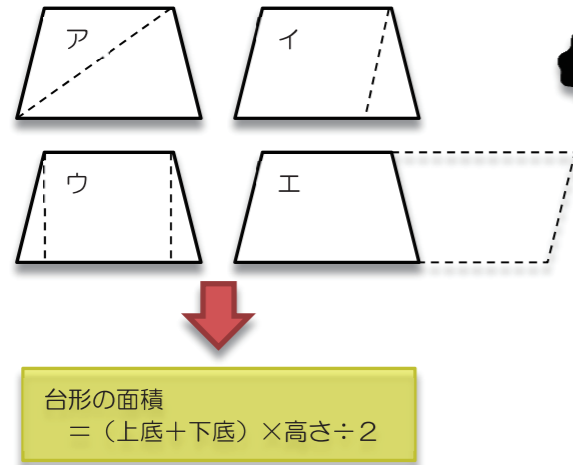
例年、中3は小6より低い数値を示す傾向にあります。これらを中学校でも高い水準で維持するためには、生き方モデルを示し続けることが大切です。理想像を見つけ前向きに努力することで自分を肯定的に評価できるからです。鳥取市のめざす「ふるさとを思い志をもつ子」を育てるために、各中学校区でより一層の工夫と実践の共有が期待されます。鳥取市小中学校道徳郷土資料集「鳥取市の志」なども積極的に活用してください。



学ぶ意欲を高め活用力が育つ授業を

「活動あって学びなし」になっていませんか？

小学校5年・算数の「台形の面積の公式」の学習場面です。さまざまな方法で面積を求める活動（自力解決）をした後で、公式を提示し暗記させる授業をしたとします。公式は、最も思いつきそうにない「エ」の考え方に基づいていますが、子どもたちからは「せっかく一生懸命考えたのに、結局この公式を覚えなさいってことなの？」という声が聞こえてきそうです。「練り上げ」がありません。では、矢印の部分でどのような発問をすればよいのでしょうか？ 1つの例を示してみます。



本時の主発問と反応予想

- T.ア～エの考え方を生かして、台形の面積を求める公式を作ることができるよ。そのためにまず、それぞれ1つの式で表してみよう。
- S.アの方法が思いつきやすいけど、式はエがいちばん短いよ。
- S.エの方法だと、数字を1回ずつあてはめるだけでいいね。



価値ある授業とは？

「学ぶ意欲を高め、活用力（思考力・判断力・表現力）が育つ」価値ある授業を提供するポイントとして、以下のことがあげられます。

- ・教材が良質であること（まずは教科書の徹底研究と単元構成）
- ・ねらいが明快で、授業全体が見通せること（めあての板書やシャープな問題提示）
- ・自分で考え、集団で磨きをかける場面があること（早くできた子に「あれっ？」と思わせる発問）
- ・自分の言葉でふり返りができること（世界でたった1冊のかけがえのないノートがそこに）

生徒の知的好奇心を引き出す豊かな学びの実現（北中学校）

生徒の実態に合わせ、数学的問題解決学習を中心に据えた学習に積極的に取り組んでおり、知的好奇心を引き出す問題場面の設定を工夫している。授業づくりのポイントとしては、「なぜそれでよいのかという根拠を追求すること」「式や図、グラフ等様々に表現し、多様に思考すること」「条件を変えて考えたり異なる場合を関連づけて考えたりすることで、新たな課題を発見したり思考を拡げたりすること」「日常生活の中の事象を数理的にとらえてモデル化し、解決すること」等を意識し、取り組んでみたいと思えるような問題づくりを心がけている。

その中で「予想したり見通しを立てたりなど、解決に向けて推測すること」「推測したことをもとにこれまでに学んだことを生かして推論したり結論を導いたりすること」「友人の考えに学んだり集団で話し合ったりする活動を通して、よりよいものを求めていくこと」「学んだことを新しい場面に活用すること」を大切にしている。

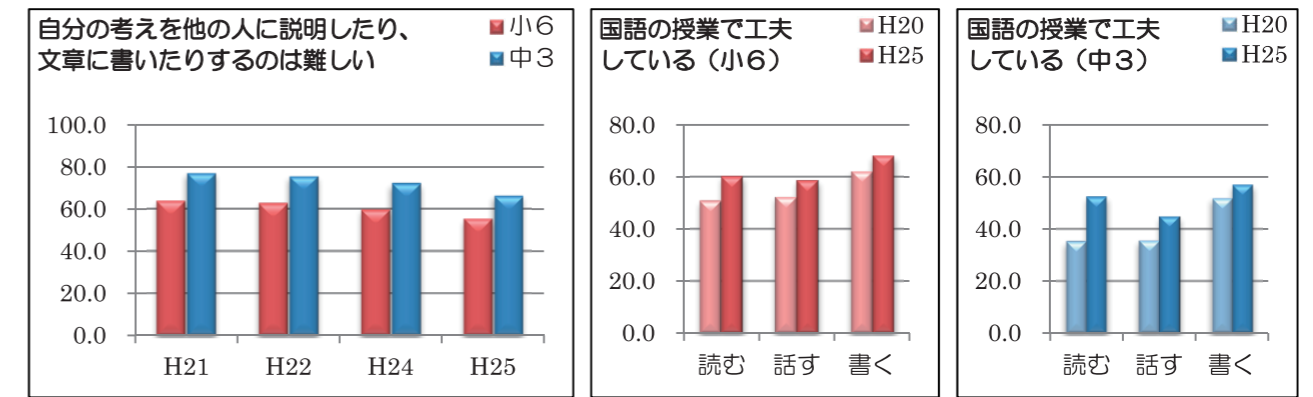
考えることと書くことの一体化を図るノートづくり（久松小学校）

学習時間に思考の過程をノートに記録したり、学びのふり返りをしたりする取り組みも教育的効果が上がってきていると言える。算数科においては少人数指導をしており、個々の能力に応じた指導ができるようにしている。さらに答えや式だけでなく、図や絵、数直線などを使って、自分の思考の過程をより分かりやすく表現するノートづくりを通して、思考力表現力を培う取り組みも効果があったと考えられる。

学習したことを表現したり活用したりする力を育成する取り組み（神戸小学校）

国語科では単元の終末にリーフレットや本の帯を作る活動を、算数科では自分の考えを説明する場面を、社会科等其他教科においても単元のまとめとしての新聞づくり等、学習したことを活用する学習展開を全学年で継続的に取り組んでいる。

言語活動の豊かな授業は、他者を尊重し自尊感情の高まる授業



小6、中3ともに、国語の学習において、書く活動や話す活動を難しいと思う生徒の割合が、経年比較において低下しています。また、読む・話す・書く場面において工夫している生徒の割合は、経年比較において上昇しています。言語活動を重視した授業が定着してきていることが伺えます。

学びあう学びを通し、背伸びとジャンプのある授業を作る（遷喬小学校）

学校生活が楽しい、安心して学べる環境づくりや「学び合う学び」を大切にした学習、国語「押さえどころ表」などによる6年間の系統性を大切にした学習を心がけている。

- ・魅力ある単元の構成（つきたい力の系統表を意識した単元構成）
- ・対話のある授業づくり（教材との対話、仲間との対話、自分との対話）
- ・探求のある課題づくり（考えてみたいと思える課題）



お客様を招いて鳥自慢をしよう ～清木忠人先生 鳥の剥製コレクションをもとに～（遷喬小・国語科）

感性を育む言語活動を取り入れた授業づくり（河原中学校）

全職員で言語活動を取り入れた授業づくりに取り組み、小集団での話し合いや資料の読み取り、文章記述などを積極的に取り入れることに全教科で取り組んだ。特に、国語科においては語彙を豊かにすることや、発言する前に書くことによって考えをまとめる活動を重視するなどした。



河中ギャラリーを作ろう ～観点を決めて 観賞文を書く～（河原中・国語科）

自分の考えを書き、相手に伝える力の育成（河原第一小学校）

国語・道徳を中心とした研究を進める中で「書く」ことへの抵抗感が無くなってきている。現在「書く」ことは全教科で推進している。「自分の考えを素直に書く」「隣同士、誰とでも考えを伝え合える」「安心して全体に考えを広める」といった研究を継続していく中で、自分の考えを書くことが楽しくなっている。また、相手が自分の考えを認めることで安心して伝え合うことができる環境を育て、それが自信へ（自尊感情の高まり）とつながる学級経営を推進してきた。

家庭学習の中身も、授業改善から！

前時の復習に時間をかけすぎ、本時目標に到達できない授業になっていませんか。子どもたちが、次に何をなすべきかをふり返りの中で確認できて、自主的な予習につながるような授業サイクルへの転換を。

